



REQUEST FOR PROPOSALS

# GFI 研究助成プログラム

提案書の作成・編集・提出は[こちら](#)から

提出期限:

**2025年5月16日 午前1時**(日本時間)

最終更新日: 2025年3月31日 *version 4*

# 目次

[序論](#)

[背景](#)

[フィールド・カタリスト助成金の機会](#)

[優先分野 A: 発酵由来成分の機能性向上 - 植物由来食肉のための原料開発](#)

[優先分野 B: 細胞株開発を加速するアプローチ](#)

[応募資格](#)

[研究提案に関する要件](#)

[提案書の作成](#)

[審査プロセスと評価基準](#)

[助成金の管理](#)

[助成金受賞者の要件](#)

[よくあるご質問\(FAQ\)](#)

[免責事項](#)

## 序論

The Good Food Institute (GFI) は、持続可能で健康的かつ公正な食料システムの構築を目指す国際的な非営利団体です。GFI の科学者、起業家、弁護士、政策専門家チームは、フードイノベーションを活用し、次の喫緊の課題に取り組んでいます。

「世界の増加する人口に対し、安全で栄養価の高い食品を持続可能に供給するにはどうすればよいのか？」

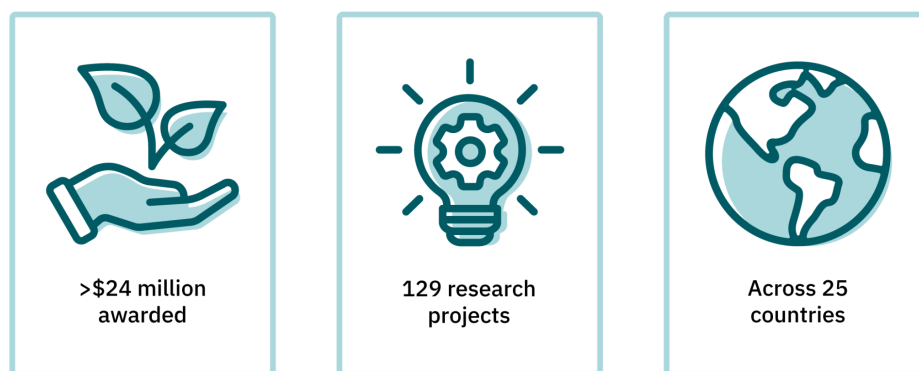
この課題の解決を通じて、人々、動物、そして地球全体にとって利益となる食料システムの構築を目指しています。GFI は、革新的な代替タンパク質ソリューションの研究開発と競争力のある商業化を加速することに尽力しています。これには、動物を使用しない方法での「肉」の生産、植物由来の代替肉の開発、および発酵由来成分の探求と改良が含まれます。ここでいう「肉」には、陸上の家畜由来の製品にとどまらず、魚や貝類などの水産物も含まれます。GFI の活動は、単なる代替肉の開発にとどまらず、代替タンパク質産業全体の進化を促進するための基盤技術や発酵由来の革新的成分の研究にも及びます。こうした取り組みを通じて、GFI は代替タンパク質の分野を包括的に発展させることを目指しています。

GFI とその科学技術チームは、植物由来、発酵由来、細胞性食肉製品の [官能特性\(味・食感\)](#)、コスト、製造能力を向上させるための研究開発を促進しています。その一環として、GFI は 2018 年に研究助成金プログラムを設立しました。このプログラムは、慈善家の支援によって運営され、代替タンパク質技術が直面するさまざまな課題を解決するための基礎研究を支援するものです。

この助成金プログラムは、魅力的で手頃な価格で、広く入手可能な代替タンパク質製品の開発を促進するため、オープンアクセスなツールや手法の創出を目的としています。

## 背景

細胞性食肉、植物由来、および発酵由来の製品は、気候変動対策やグローバルヘルスにおいて大きなプラスの影響をもたらす、非常に魅力的な研究分野です。代替タンパク質のような新興分野においては、研究資金が重要な触媒的役割を果たし、初期データの創出を促進することで、従来の資金調達メカニズムからの追加投資を呼び込む効果があります。GFIの研究助成金プログラムは、複数の寛大な支援者の寄付によって、こうした基礎研究を推進し、オープンアクセスな知識の共有を促進することで、この革新的な分野の発展に貢献しています。2018年の設立以来、GFIの研究助成金プログラムは毎年、研究者が迅速に活用できる資金に応募する機会を提供してきました。



## フィールド・カタリスト助成金の機会

本提案募集要項(RFP: Request for Proposals)について:  
代替タンパク質業界における科学的・技術的な重要課題に対応する研究提案を募集するものです。GFIは、技術成熟度レベル(Technology Readiness Level, TRL)1~6の範囲にある初期から中期段階の研究を支援します。

本助成プログラムでは、2つの優先分野に対し、最大**350万米ドル<sup>1</sup>**のフィールド・カタリスト助成金を提供します。この助成金は、特定の科学技術分野における優先度の高い課題に対する支援を目的とし、通常24か月以内、かつ25万米ドル以内のプロジェクトを対象とします。ただし、本RFPの「助成金情報」セクションに記載のとおり、新たな共同研究を含むプロジェクトには追加の資金申請が可能です。

<sup>1</sup> US\$1=¥150レート換算の場合、5億2500万円相当

助成対象となるには、提案内容が本RFPの優先課題に明確に対応していることが必須条件です。助成対象外の提案については、審査の対象となりません。

## 優先分野 A：発酵由来成分の機能性向上 - 植物由来食肉のための原料開発

本助成では、発酵由来の原料の特定および特性評価を行い、代替タンパク質を活用した肉製品の受容性を向上させる研究を支援します。これにより、風味の向上、コスト削減、栄養価の強化を実現することを目的としています。

発酵由来の原料には、代替タンパク質肉の官能特性を向上させる特定のタンパク質やタンパク質群が含まれる場合があります。また、タンパク質含有量の向上や機能性の強化に寄与するバイオマス製品も対象とします。

生産プラットフォーム: 発酵 (Fermentation)

技術分野: 原料最適化 (Ingredient Optimization)

詳しくは以下の資料をご覧ください:

- Eastham, J. L., & Leman, A. R. (2024). Precision fermentation for food proteins: Ingredient innovations, bioprocess considerations, and outlook — A mini-review. *Current Opinion in Food Science*, 58, 101194. <https://doi.org/10.1016/j.cofs.2024.101194>

本テーマに関連するGFIがこれまでに助成した研究:

- [Microbial production of fats/oils for AP Meat organoleptics.](#)
- [Turning mushrooms into fish](#): “Fish Fillet Analogue Using Formulation Based on Mushroom (*Pleurotus Ostreatus*) and Enzymatic Treatment: Texture, Sensory, Aromatic Profile and Physicochemical Characterization.” *Foods (Basel, Switzerland)* 13 (15): 2358. <https://doi.org/10.3390/foods13152358>.
- [Controlling texture of filamentous fungi](#): “GastronOmics: Edibility and Safety of Mycelium of the Oyster Mushroom *Pleurotus Ostreatus*.” *Current Research in Food Science* 9 (100866): 100866. <https://doi.org/10.1016/j.crfs.2024.100866>.

### 現在の課題

本研究分野は、植物由来および代替タンパク質の食肉製品の特有の課題である「色」、「風味」、「結着性」に対応するための原材料の開発を目的としています。味の均衡性(テイストパリティ)を達成するには、動物の結合組織を模倣するバインダー、動物由来製品と同一の風味を持つフレーバー、動物肉の赤色から茶色への変化を再現する発色成分が不可欠です。

例えば、「加熱時に赤から灰色・茶色に変化する保存安定性の高い赤色素」や、「酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)や炭酸カルシウム(CaCO<sub>3</sub>)を使用しない白色素」は、常に求められている開発ターゲットです。また、動物由来製品に非常に近い風味を実現するフレーバーや、植物性たんぱく質特有のオフフレーバーをマスキングするフレーバーも、味の同等性達成には不可欠です。

さらに、動物由来製品のような食感や口当たりを実現するバインダーは、革新的かつ理解しやすい成分であることが望ましく、製品開発の効率向上と消費者受容の促進の両面で貢献します。この分野の研究は、現在の製品開発において解決が困難とされている課題の打開につながると期待されています。

#### 解決策の提案

GFIは、発酵由来成分を活用した食肉製品の処方設計、特性評価、および機能解析に焦点を当てた提案を求めています。これには、栄養成分(栄養価、消化性)、機能特性(乳化、ゲル化、水分保持・油分保持能力など)、化学的・物理的特性(色調、塩分含有量など)、官能評価(風味、食感、視覚的魅力など)、食品安全性(アレルギー性など)を含みますが、これに限定されるものではありません。

GFIは、バイオマス発酵および精密発酵による成分の開発を通じて、植物由来・代替タンパク質ベースの食肉製品の処方を改良する革新的な提案を奨励しています。研究対象には、これらに限定されるものではありませんが、次のようなものが考えられます。

- バイオマス発酵では、細胞全体を不活性化し、脱水・テクスチャ化することで、高タンパク質含有の細胞バイオマスを得る。このバイオマスは、代替タンパク質肉製品において、高タンパク質成分や結着成分として添加できるだけでなく、うま味を引き出す風味成分や、肉のような食感を提供するための最適化も可能である。AP肉製品において、バイオマス由来のタンパク質は、植物由来成分と相補的に働き、最終製品のアミノ酸構成を多様化し、植物性タンパク質に不足しがちな必須アミノ酸を補完する役割を果たす。
- これまでに、精密発酵由来の成分として、グロビタンパク質が開発され、代替タンパク肉の鉄結合性や官能特性の向上に活用されてきた。今後、他の精密発酵由来のタンパク質や成分を用いることで、AP肉の魅力を高め、その生産を促進する機会がある。例えば、卵白タンパク質の代替となる結着成分などが挙げられる。これらの精密発酵由来成分は、結着性の向上、水分・脂肪保持能力、食感、香り、味、栄養価(ミネラル供給など)の向上に寄与する可能性がある。

採択される提案では、以下の点を明確に述べる必要があります。

- 対象となる成分(上記のガイドラインに適合するもの):本プロジェクトにおいて焦点を当てる特定の成分と、それがどの代替タンパク肉製品の処方設計および評価に関連するのかを明確に示すこと。
  - 食品処方上の課題と、それが機能性および官能特性とどのように関係するか:解決すべき食品処方上の課題を特定し、それが機能特性または官能特性にどのように関連するのかを説明すること。
  - 食品処方上の課題に対する対象成分の役割を調査するためのアプローチ:特定の成分が食品処方上の課題にどのように対処するのかを検証するための手法を明確に示すこと。
- 特定された官能特性および機能的課題に対応する成分の利用可能性を明確に説明すること。

- 当該成分の現在の[BioMRL](#)と、それが機能的および官能的課題の解決に短期間で活用可能かどうかの評価を示すこと。助成対象となる提案は、今後約5年間で代替タンパク肉製品の潜在的な解決策を示すものとする。

以下に焦点を当てた提案は対象外とします：

- 細胞性食肉の原材料（動物細胞の培養に由来、またはそれに使用されるもの）
- 動物飼料向けの成分
- 高タンパク質粉末やその他の食品用途（パスタ、ベーカリー、プロテインサプリメントなど）向けの成分の使用に特化した提案（代替肉用途以外）
- 乳製品（牛乳、チーズなど）に直接関連する処方設計
- 動物由来成分を微生物発酵によって変換・改質する成分（動物由来成分や、それを含む原料・培地を使用する提案は認められない。例：ウシ由来乳成分を含む培地で培養された微生物由来のバイオマス）
- 微生物由来脂質の生産のみに特化した提案
- 成分（脂質またはその他の成分）の研究開発、スケールアップ、生産に特化した提案

この優先分野に関する質問、応募資格に関する一般的な質問、提案書の準備や提出に関する質問、または申請システムのサポートが必要な場合は、[RFP@gfi.org](mailto:RFP@gfi.org) までお問い合わせください（英語のみ対応）。

## 優先分野B：細胞株開発を加速するアプローチ

陸上動物および水生動物種における細胞株開発を推進し、イノベーションを促進するとともに、細胞性食肉分野のオープンアクセス研究ツールを強化することを目的としています。

生産プラットフォーム：細胞性食肉（Cultivated Meat）

技術分野：細胞株開発（Cell Line Development）

詳細については、以下のリソースをご参照ください。

- [Cell line development and utilisation trends in the cultivated meat industry](#)
- [Cell line development from food-relevant aquatic species](#)
- [Establishment of cell line repositories and standardized isolation protocols](#)
- [Improving efficiency and assessment of adaptation to suspension growth](#)
- [Promoting stemness and proliferation in fish cell cultures](#)
- Riquelme-Guzmán, C., Stout, A. J., Kaplan, D. L., & Flack, J. E. (2024). Unlocking the potential of cultivated meat through cell line engineering. *iScience*, 27(10), 110877. <https://doi.org/10.1016/j.isci.2024.110877>
- Martins, B., Bister, A., Dohmen, R. G. J., Gouveia, M. A., Hueber, R., Melzener, L., Messmer, T., Papadopoulos, J., Pimenta, J., Raina, D., Schaeken, L., Shirley, S., Bouchet, B. P., & Flack, J. E. (2024). Advances and Challenges in Cell Biology for Cultured Meat. *Annual review of animal biosciences*, 12, 345–368. <https://doi.org/10.1146/annurev-animal-021022-055132>



本テーマに関連するGFIがこれまでに助成した研究：

- [Differentiation and cell lines for cultivated carp](#)
- [The Frozen Farmyard: A cell line repository](#)
- [Developing myosatellite lines from Atlantic salmon](#)
- [Developing cell lines for cultivated seafood](#)

### 現在の課題

多様な種由来の高品質な細胞株を確保し、有用な形質を持つ細胞を利用できることは、企業や研究者が細胞性食肉および水産物の生産を拡大し、最適化するための前提条件です。この拡大と最適化が実現されなければ、細胞性食肉が持つ環境負荷低減、公衆衛生向上、動物福祉の向上といった利点を十分に発揮することはできません。適切な細胞株の不足は、細胞性食肉の技術革新を阻む恒常的なボトルネックであり、この課題を克服するには基礎研究の継続的な発展と、より強固な供給網の確立が不可欠です。

細胞性食肉および水産物の研究において、細胞株の有用性を決定づける特定の特性や要件が存在します([Ravikumar et al., 2024](#))。基本的な要件として、安定した継続培養が可能で、特定の細胞種への分化が誘導できる細胞株が求められます。また、増殖速度が速く、血清フリーおよび動物成分フリーの培地に適応し、懸濁培養(Suspension culture)や3D培養が可能な細胞株は、商業生産のコスト効率向上に不可欠です。しかし、細胞株開発の課題は陸上動物と水生動物(魚類や甲殻類)では大きく異なる。例えば、種ごとに開発すべき[主要な細胞種](#)にも違いがあります。

陸上動物では、代替タンパク質分野以外の基礎研究の歴史が長く、いくつかの種では適切な細胞株がすでに存在します。しかし、利用可能な細胞株の種類を増やし、それらの形質の多様性を拡大することは、この分野にとって大きな利益となります。一方で、魚類では適切な細胞株の選択肢が限られており、世界的に消費される魚種の多様性を考慮すると、これは大きな課題です。さらに、甲殻類では継続培養可能な細胞株はこれまで報告されておらず、一次培養の技術開発は進んでいるものの([Jang et al., 2022](#))、依然として大きな技術的課題が残っています。

### 解決策の提案

GFIは、食用に適した陸上動物、魚類、甲殻類の新規細胞株の開発、または既存の細胞株の最適化を目的とした提案を募集しています。これら3つの種群において細胞株開発の進展状況には違いがあるため、応募者は以下に詳細を示す研究パスウェイのうち、少なくとも1つを選択する必要があります。各パスウェイの範囲と目的は、現在の研究状況を考慮し、それぞれの種群において実現可能であり、かつ分野に最大の影響を与えるものとして慎重に設計されています。

#### パスウェイ1: 甲殻類の細胞株

細胞種: 筋芽細胞(Myoblasts)または筋衛星細胞(Myosatellite cells)

#### 主要目的:

1. 継続培養可能な細胞株を開発し、筋細胞へ適切に分化できることを確認する
2. 細胞株を低血清または無血清培地で培養可能な状態へ適応させる
3. 細胞株の遺伝的および表現型の安定性を評価するための実験戦略を構築する
4. 開発した細胞株を細胞リポジトリに寄託し、GFIのグローバル[細胞株データベース](#)に登録する

## パスウェイ2: 魚類の細胞株

細胞種: 筋芽細胞 (Myoblasts) または筋衛星細胞 (Myosatellite cells) / 脂肪前駆細胞 (Adipogenic progenitors)

主要目的:

1. 継続培養可能な細胞株を新たに開発する、または既存の継続細胞株を最適化する
  - a. 低血清または無血清培地での増殖に適応させる
  - b. 懸濁培養または3D培養システムでの増殖を可能にし、理想的には倍加時間を24時間以内にする
  - c. 筋細胞および/または脂肪細胞へ分化できる能力を持たせる
2. 細胞株が遺伝的および表現型的に安定であることを定義し、実証するための実験戦略を構築する
3. 開発した細胞株を細胞リポジトリに寄託し、GFIのグローバル[細胞株データベース](#)に登録する

## パスウェイ3: 陸上動物の細胞株

細胞種: 胚性幹細胞 (ESCs)、人工多能性幹細胞 (iPSCs)、筋芽細胞 (Myoblasts) または筋衛星細胞 (Myosatellite cells)、脂肪前駆細胞 (Adipogenic progenitors)

主要目的:

1. 継続培養可能な細胞株を新たに開発する、または既存の継続細胞株を最適化する
  - a. 無血清培地での増殖に適応させる
  - b. 懸濁培養または3D培養システムでの増殖を可能にし、倍加時間を24時間以内にする
  - c. 筋細胞および/または脂肪細胞へ分化できる能力を持たせる
  - d. ESCまたはiPSC株の場合、フィーダー細胞を使用しない条件で培養可能にする
2. 細胞株が遺伝的および表現型的に安定であることを定義し、実証するための実験戦略を構築する
3. 開発した細胞株を細胞リポジトリに寄託し、GFIのグローバル[細胞株データベース](#)に登録する

## 二時的目標

細胞株の開発は、細胞性食肉および細胞性水産物の生産に関する多くの研究課題の上流に位置しています。そのため、GFIは高性能な細胞株を開発するだけでなく、それを活用して少なくとも1つの補完的な二次的目標を達成するプロジェクトを支援したいと考えています。

例えば、次のようなものが含まれますが、これに限定されるものではありません。

1. 懸濁培養または3D培養システムにおいて、細胞株の安定性を損なうことなく、有害な代謝廃棄物の生成や蓄積を低減する方法を特定すること(例: 細胞工学、培養条件の操作、培地のリサイクル、培地成分の調整 など)。



2. ドナー動物の特性(年齢、品種、性別 など)や細胞単離のパラメータ(組織の種類、解剖学的位置 など)が、それらの組織由来の細胞株の重要な品質特性に影響を与えるかどうかを評価すること。
3. 既存の公開プロトコルを比較する、または2Dおよび3D培養システムにおいて増殖や分化(筋形成または脂肪形成)を促進する方法を改良すること。
4. 目的の細胞フェノタイプを獲得し、細胞株の商業的有用性を向上させるために、異なる細胞工学戦略を比較すること。
5. 細胞株の遺伝的および表現型の安定性を比較すること。特に、GFIの細胞株データベースに登録されているものや、企業が製造用途に使用している細胞株を対象とすること。
6. 異なるバイオリクター環境において、乾燥重量、バイオマス組成、化学量論、動態データを収集し、ライフサイクルアセスメント(LCA)および技術経済分析(TEA)モデルに活用すること。
7. 脂肪および筋肉の分化中に蓄積されるバイオマスの量と、代謝の変化を測定し、それらのデータをLCAおよびTEAモデルに反映させること。

二次的目標への対応は、パスウェイ3において必須であり、パスウェイ2では推奨です。甲殻類の細胞株開発に関連する課題を考慮すると、パスウェイ1では任意とし、主要目標の達成に重点を置いた提案が推奨されます。

応募者は、上記に挙げたものとは異なる二次的目標を提案することも可能ですが、それが過度に野心的でなく、選択した研究パスウェイの主要目標の達成を妨げないことが重要です。

採択される提案では、以下の点を明確に述べていることを必須とします。

- 研究の対象とする研究パス、種、および細胞種:どの研究パス、動物種、細胞種に焦点を当てるのか、またその理由を説明すること。複数の研究パスにまたがる提案を行う場合は、その中から主要な焦点となるパスを1つ選び、明示すること。
- 細胞株開発の段階を超えた二次的目標:  
パスウェイ3では必須、パスウェイ2では推奨、パスウェイ1では任意。
- 主要および二次的目標を達成するための実験戦略を提示し、可能であれば予備データを添えること。
- 選択した動物種および細胞採取方法に応じて、細胞株の出自に関する情報の記録計画を示すこと。これには、動物の健康状態、ワクチン接種歴、採取した組織の種類や解剖学的位置、獣医師の評価、鎮痛処置または安楽死の有無とその記録が含まれる。
- 開発した細胞株をどのように保存し、細胞性食肉および細胞性水産物の研究コミュニティと共有するかの計画を示すこと。
- 開発された細胞株が細胞性食肉または水産物の市場化にどのように貢献するかを説明する戦略を示すこと。研究成果を商業化する予定の有無にかかわらず、商業的応用の可能性を慎重に検討すること。例えば、本研究がオフパテント技術に完全に依存するのか、または特許技術を使用する場合、その理由が本研究の目的とどのように整合するのかを説明すること。
- 開発される細胞株は[コーシャまたはハラール基準](#)に準拠する必要はないが、選択した動物種や実験アプローチを踏まえ、これらの基準に適合させることが実現可能かつ適切である場合には、適合性の文書化に関する計画を示すことが奨励される。

以下に該当する提案は対象外となります。

- 食用に適した陸上動物、魚類、または甲殻類由来の新規または最適化された細胞株を開発しない提案。昆虫や、人間の消費目的で大規模な産業的畜産または漁業の歴史がない生物の細胞株、または食肉や水産物に関連しない細胞種(例:乳腺細胞)を対象とする提案は、対象外とする。
- 研究対象とする動物種や細胞種の選択理由を正当化しない提案。
- 選択した研究パスにおける主要な目標のいずれかを除外する提案、パスウェイ3において二次的目標を選択しない提案、または提案する実験戦略を明確に示さない提案。
- 血清の代替として昆虫加水分解物やその他の動物由来成分を使用することを目的とする提案。ただし、血清の代替としてアルブミンを中間的なステップとして使用する提案については検討対象とする可能性がある。
- 細胞株の出自に関する詳細を文書化する計画を明示しない提案。
- 本プロジェクトで開発された細胞株を適切に保存し、広範な研究コミュニティと共有する計画を示さない提案。
- 助成された研究の商業的応用可能性が不明確な提案。
- 開発された細胞株をGFIのグローバルデータベースに追加することに同意しない提案。

この優先分野に関する質問、応募資格に関する一般的な質問、提案書の準備や提出に関する質問、または申請システムのサポートが必要な場合は、[RFP@gfi.org](mailto:RFP@gfi.org) までお問い合わせください。

## 応募資格

本募集では、世界中のすべての分野の応募者を対象としており、学界、政府機関、産業界、非営利団体に属する研究者が応募可能です。GFIは、女性やジェンダーマイノリティ、人種的・民族的マイノリティ、また代替タンパク質業界において過小評価されている個人に対し、本RFPを通じた資金提供への応募を強く推奨します。

大学院生やポスドク研究者も、本プロジェクトの主導研究者(Principal Investigator)として応募可能です。ただし、その場合、在籍する高等教育機関の教員が署名した「コミットメントレター(Letter of Commitment)」の提出が必須となります。このコミットメントレターには以下を明記する必要があります。

- 当該教員がプロジェクトの協力者およびアドバイザーとして関与することを明確に約束すること。
- 提案された研究に必要な実験設備へのアクセスが確保されていることを確認すること。
- 応募者が学生の場合、現在の博士論文の目的(完了済みおよび計画中の研究)を記載し、本提案がその研究にどのように貢献するかを説明すること。

GFIは、代替タンパク質分野に新たに参入する科学者や、これまでGFIの助成を受けたことのない研究者からの提案を積極的に歓迎します。同時に、過去にGFIの助成を受けた研究者による提案も受け付けます。

なお、GFIはいかなるスタッフに対しても100% FTE(フルタイム相当)を超える労力を伴うプロジェクトには資金を提供しません。

研究者は複数の提案書に主要メンバー(Key Personnel)として参加することが可能ですが、1つのRFPにつき、主導研究者(Principal Investigator)として応募できる提案は1件までに制限されます。

## 研究提案に関する要件

提案には、24か月以内に達成可能な研究目標を含める必要があります。

総予算(間接費を含む)は25万ドル以下<sup>2</sup>とする必要があります。ただし、学際的な共同研究を促進し、代替タンパク質分野に新たに参入する研究パートナーとの協力を奨励するため、追加で5万ドルの資金を申請することが可能です。

この追加資金を申請するには、これまで代替タンパク質分野においていかなる資金提供も受けたことのない研究パートナーとの意義のある共同研究を含める必要があります。共同研究パートナーには、応募者の所属機関内の研究者も含めることができますが、異なる部門・分野・専門スキルを持つ研究者である必要があります(例:同じ大学内の別の学部や研究センター)。

共同研究の説明では、新たな研究者、視点、技術をどのようにこの分野にもたらすのかを明確に示す必要があります。

この共同研究を含む場合、総予算(間接費を含む)は30万ドル<sup>3</sup>を超えてはなりません。

間接費は、総予算内に含める必要があり、申請する直接経費の10%を超えてはなりません。間接費は、提案された研究に直接関連する管理費や一般経費を支援する目的で使用する必要があります。この指針は、応募者の所属機関およびサブアワード先の組織の両方に適用されます。

## 提案書の作成

1. 提案書は、GFIの運営する[proposal portal](#)を通じて作成・提出する必要があります。応募者は、提案書を作成・提出するためにユーザープロフィールを作成する必要があります。
2. 提案書は英語で作成し、以下の情報および資料を含めてください。

### プロジェクトの詳細(必須)

提案書には、組織情報、プロジェクトタイトル、概要、主要関係者の情報を含める必要があります。また、人体、動物、または危険物を使用する場合の情報も記載する必要があります。

### 研究計画(必須) – 6ページ以内

最大1ページで研究チームの概要を記載し、資格および経歴を要約してください。

---

<sup>2</sup> US\$1=150円換算時、3,750万円

<sup>3</sup> US\$1=150円換算時、4,500万円

最大5ページでプロジェクトの目的、研究設計、方法論、共同研究(該当する場合)、および参考文献について説明してください。

代替タンパク質分野での意義や正当性の説明は不要です。限られたページ数を研究内容の記述に充ててください。

#### 作業計画 (必須) – 1ページ以内

研究計画に含まれるプロジェクトの目標、マイルストーン、タスク、および依存関係を明確に示してください。フォーマットは自由ですが、ガントチャートやタイムライン図が推奨されます。具体的なカレンダー日付ではなく、一般的なタイムフレームを使用してください。

#### 予算 (必須) – 1ページ以内 + 共同研究機関ごとに1ページ

提案書内のテンプレートを使用し、組織ごとの予算カテゴリごとに費用を項目別に記載してください。共同研究機関がある場合、各機関ごとに追加の予算ページを作成してください。総予算は25万ドルを超えてはなりません。ただし、新規共同研究を含む場合は30万ドルまで許容されます。予算申請は米ドル建てで行う必要があります。

テンプレートへのリンクは提案書内に記載されており、詳細な記入手順を説明したタブが含まれています。

#### 予算の正当性 (必須) – 2ページ以内

プロジェクトに必要なすべての予算カテゴリ(共同研究機関への助成を含む)について、申請する資金の詳細とその正当性を説明してください。追加の5万ドルを申請する場合は、対象となる新規共同研究の詳細を記載してください。

応募者は、提案する研究の実際の推定コストに基づいて予算を作成することが推奨されます。GFIは、限られた資金の中でインパクトの大きい研究を最大限に支援することを目指しており、応募者にはプロジェクトの成功に必要な資金を確保しつつ、慎重かつ現実的な予算を作成することを推奨します。

#### インパクト戦略(必須) – 2ページ以内

提案された研究が有意義な成果を達成し、その影響を最大化するための計画を詳細に説明してください。本計画に関連する費用については、予算内で申請することが可能です。詳細なガイダンスは、本書のFAQセクションを参照してください。

#### コミットメントレター(任意) – ひとつのPDFにまとめ、1通につき最大2ページまで

- 助成を受けた場合にプロジェクトへ金銭的または現物支援を提供することを約束する共同研究者からのレターを提出できます。このレターには、共同研究者の役割と貢献内容を明記し、提供する支援の金銭的価値の見積もりを記載してください。

- 申請機関からのレターでは、プロジェクトへの金銭的または現物支援の約束を示す必要があります。
- 研究責任者が大学院生またはポスドク研究者である場合、申請機関の指導教員からのレターが必要です。このレターには、プロジェクト期間中、協力者およびアドバイザーとして関与することを約束し、研究に必要な実験設備の使用が可能であることを確認する内容を含めてください。また、博士課程の学生の場合、博士論文の現在の目的(完了済みおよび計画中の研究)を記載し、本研究がそれにどのように貢献するかを説明する必要があります。

すべての提案書関連のアップロード文書は**PDF**形式で提出してください。

フォントは**Arial 11pt**以上を使用し、余白は**0.5インチ(約1.27cm)**を確保してください。

用紙サイズは**A4**または**US**レターサイズを使用してください(コミットメントレターは除く)。すべての提出書類は英語で作成する必要があります。

提案書が予算制限およびアップロード文書のページ数制限を遵守しているかを必ず確認してください。ページ数制限を超えた提案書は審査対象外となります。

提案書の提出期限は、本RFPの1ページ目に記載された締切日までです。締切後の提出は、いかなる理由があっても受け付けません。

## 審査プロセスと評価基準

提出されたすべての提案書は、包括的な評価プロセスを経ることになります。まず、適合性審査および範囲評価が実施されます。提案書は、ガイドラインを遵守し、選択した優先分野の要件を満たし、科学的および方法論的に妥当であることが求められます。これらの基準を満たさない場合、次の審査段階には進めません。

この初期審査を通過した提案書は、学術界および産業界の外部専門家による厳格な科学的評価を受け、実現可能性、適合性、およびGFIの資金提供の優先度について審査されます。

提案書は以下の基準に基づいて評価されます。

- 独創性と重要性(主要審査基準。他の基準は補助的な要素です。)
  - 提案された研究の新規性、革新性、変革の可能性
  - 資金提供の優先分野との関連性
  - 提案された方法論の適合性
- 研究チーム

提案プロジェクトを遂行する研究者の能力は、以下の要素に基づいて評価されます。

  - 研究に関与する研究者(リーダーチームおよび共同研究者)の専門知識と経験
  - チーム内のスキルバランス
  - 強固で意義のある相乗効果のある共同研究
- プロジェクト計画



- 明確で具体的な研究目標
- 提案方法が明確で実現可能であり、信頼性の高い結果を得られること
- 研究の各段階、タイムライン、マイルストーンが詳細に構成された計画であること
- **費用対効果**
  - 提案された活動に対して妥当な予算が設定されており、透明性のある正当な理由が示されていること
  - 申請された予算に対する研究の価値
- **期待される影響**
  - インパクト戦略の包括性、実現可能性、および創造性
  - 有意義かつ／または広範な影響を達成する可能性

言語に関する配慮: 提案書を英語で作成する必要があることにより、多くの研究者が母国語ではない言語で執筆する場合があることを認識しています。そのため、審査員には、言語の流暢さではなく、研究のコンセプトの質と補助的な審査基準に基づいて評価を行うよう指示されています。

## 助成金の管理

研究責任者 (Principal Investigator)、指導教員 (研究責任者が大学院生またはポスドクの場合)、および申請機関の承認署名者は、GFIと助成契約 (Grant Agreement) を締結する必要があります。助成契約には助成金の条件および規約が詳細に記載されます。助成契約のサンプルは[こちら](#)から確認ください。なお、本契約書は、助成金の実行前に更新される可能性があります。

GFIに提出される助成対象として選ばれた提案書については、プロジェクトタイトル、プロジェクト概要、プロジェクトチームのメンバー名、職名、所属機関に加え、提案されたプロジェクトの範囲、目的、助成金額など、GFIが適切と判断するその他の情報が公開されます。

提案書の内容のうち、機密として保持したい情報がある場合は、その情報が機密であることを示す注釈を必ず明記してください。GFIおよびその関連組織は、米国法の範囲内でこれらの情報を機密として保持しますが、提案書が採択され助成金を授与する際に、機密保持の要件を削除することを条件とする場合があります。

助成対象から外れた提案書については、研究者や提案の内容に関する情報は一切公開されません。ただし、GFIは、受領した提案書の総数、提案を提出した機関の種類 (公立または私立)、研究者の所属国に関する匿名化された統計情報を公開する可能性があります。これらの統計情報には、個人や機関を特定できる情報は含まれません。応募者は、[RFP@gfi.org](mailto:RFP@gfi.org) に申請することで、いつでも提案書を撤回することができます。

GFIは、助成金の最終決定を行う前に、プロジェクトリーダーと提案内容の調整を行う権利を有します。これには、プロジェクトの目的や範囲、予算、スケジュールなどが含まれます。また、助成金の提供、プロジェクト期間の延長、予算の増額に関するすべての決定は、GFIの審査委員会の裁量によって行われ、異議申し立ては受け付けられません。

## 助成金受賞者の要件

助成金受賞者に対する期待および具体的な要件は、助成契約(Grant Agreement)に明記されます。助成金の受領前に、研究責任者(PI)、GFI、および申請機関の承認署名者がこの契約に署名する必要があります。

基本的な要件には、以下の事項が含まれますが、これに限定されるものではありません。

- プロジェクト期間中、GFIの科学技術チームと定期的に連絡を取り、一貫した進捗を確保すること。
- プロジェクトの成果を、公にアクセス可能な方法で公開すること。
- GFIのウェブサイト、ブログ、ソーシャルメディアでプロジェクトの目標に関する短い説明を掲載することに同意すること。
- 助成金受賞者には、以下の報告が求められます。
  - 中間報告書(MidTerm Report):プロジェクトの中間点で提出が必要であり、助成金の最終分配前に提出すること。
  - 最終報告書(Final Report):プロジェクト終了日から30日以内に提出すること。
  - 最終助成金支出報告書(Final Grant Expenditure Report):プロジェクト終了日から90日以内に提出すること。
  - 出版状況報告書(Publication Status Report):プロジェクト終了日から1年以内に提出すること。

各報告書のテンプレートと提出手順は、提出期限前に研究責任者(PI)へメールで送付されます。GFIは、必要に応じて追加の情報提供を求める場合があります。

- 研究責任者(PI)またはプロジェクトの主要関係者は、代替タンパク質に関連するカンファレンスや同様のイベントに参加するよう依頼される場合があります。また、GFIの研究提案の外部審査員としての役割を求められることもあります。

## 追加情報

### GFIおよび支援する代替タンパク質技術に関する詳細情報

[gfi.org/essentials](https://gfi.org/essentials)

GFIの研究助成および助成金受賞者に関する詳細情報

[gfi.org/researchgrants](https://gfi.org/researchgrants)

本プログラムや提案書の提出プロセスに関する質問は、GFIの助成金管理チームまでお問い合わせください。窓口: GFI助成金管理チーム [RFP@gfi.org](mailto:RFP@gfi.org) (英語)



# 研究助成プログラム申請に関する よくあるご質問(FAQ)

英語原文最終更新日:2025年3月10日

このFAQは、GFIの研究助成へのご応募を検討される際に役立つ情報をまとめて掲載しています。応募期間中、お問い合わせの多いご質問については、この提案募集要項(RFP: Request for Proposals)内のFAQを随時更新してご案内いたしますので、定期的にご参照ください。

## 助成金について

助成金の対象となる研究分野は？

助成金の対象外となる研究分野は？

GFIおよび研究助成金プログラムの資金源は？

研究助成の競争率は？

双方の優先研究分野にまたがる研究提案は申請できますか？

米国の研究者が優遇されることはありますか？

共同出資を伴う研究提案を受け付けていますか？

## 方針について

人間の健康、動物福祉、環境に影響を及ぼす可能性のある研究に対するGFIの方針は？

オープンアクセス型の研究のみが助成対象となっている理由は？

GFIの助成金を受けた研究における知的財産に関する方針は？

## 提案書の内容について

主要な研究関係者の履歴書やバイオスケッチ(Biographical Sketch)はどこに含めるべきですか？

参考文献はどのように記載すべきですか？

## 予算について

直接経費と間接経費の定義は？

予算にはどの通貨を使用すべきですか？

設備・備品の購入に関して申請できる金額に制限はありますか？

設備・備品の製作に関連する費用を予算に含めてもよいですか？

設備・備品や施設のレンタル費用を予算に含めてもよいですか？

設備・備品のメンテナンスにかかる費用を予算に含めてもよいですか？

業務委託契約の費用を予算に含めてもよいですか？

研究のコラボレーターと業務委託契約者の違いは？  
研究のコラボレーターはどのように予算に含めるべきですか？  
研究のコラボレーターにはどのようにして助成金が支払われますか？  
「代替タンパク質分野への新規参入者」と判断される基準は？  
50,000米ドルの追加資金を要求するためのガイドラインは？  
研究成果の出版に関連する費用を予算に含めてもよいですか？  
知的財産管理に関連する費用の予算申請は認められていますか？

#### インパクト戦略 (Impact Strategy) について

インパクト戦略はどのように書けばよいですか？

#### 提案書の提出について

提案書は自分で提出できますか？それとも、所属組織のリサーチ・オフィス (Sponsored Research Office) または認定された署名者 (Authorized Signatory) による提出が必要ですか？  
所属や雇用関係のない組織から提案書を提出することはできますか？  
提案書が受理されたかどうかを確認する方法はありますか？  
提出後、審査結果が通知されるまでの期間は？  
助成対象に選定された場合、プロジェクトはいつ開始すべきですか？

#### リソースについて

植物性、発酵由来、細胞性食品産業に関する追加の資料はどこで入手できますか？

## 助成金について

助成金の対象となる研究分野は？

基本的には、植物性、発酵由来、細胞性の代替肉の各分野における科学技術の進歩につながる革新的なプロジェクトを助成対象としています。ここでいう「肉」には、従来陸上の家畜から生産される製品（鶏肉、豚肉、牛肉など）だけでなく、魚や貝類などのシーフードも含まれます。

GFIのRFPでは毎年、代替タンパク質技術の発展に最も大きな影響を与える見込みがある優先分野を特定し、それに基づいて助成対象を決定します。現行の優先分野のいずれにも該当しない提案は、審査対象外となります。

助成金の対象外となる研究分野は？

GFIは現在、以下の分野における研究への助成には取り組んでいません。



- 昆虫の養殖または昆虫を原料とする食品。ただし、昆虫組織培養に関するプロジェクトは、植物性、発酵由来、または細胞性の代替肉産業における官能特性、コスト、規模の改善に直接関連する成果を出す場合に限り、助成の対象となる場合があります。
- ヒトを対象とした研究。ただし、適格なプロジェクトの一環として新しく開発された成分や製法、製品の官能的な要素を試すことを目的とした分析であれば、訓練を受けた官能評価パネルが関与するプロジェクトは助成の対象となる場合があります。
- GFIは、社会科学、経済学、環境科学、公共政策、法律、マーケティングなどに関する研究の必要性は極めて高いと認識していますが、GFIの研究助成プログラムでは、科学のおよび技術的・技術開発的研究に特に優先を置いています。そのため、市場調査、消費者の嗜好調査、ライフサイクル分析、およびその他の類似のトピックに焦点を当てた提案は、現在受け付けておりません。
- 卵または乳製品の代替品を主な対象とするタンパク質。卵や乳製品のタンパク質にも応用可能な技術を含む提案もあることは認識していますが、食肉関連の応用事例に焦点を当てた内容の提案を期待しています。

#### GFIおよび研究助成プログラムの資金源は？

この助成プログラムは、寄付者の皆様からの多大なご支援によって実現しています。匿名を希望する少数の寄付者から、使途制約のある寄付や使途制約のない寄付をいただき、研究活動を支援しています。寄付者は60カ国以上にわたり、5米ドル、50米ドル、500米ドル、50,000米ドル、またはそれ以上の寄付金をいただいています。過去3年間の寄付総額の内訳は、個人が57%、慈善団体が41%、企業が2%を占めており、少額ながらも米国以外の政府からの助成金も寄せられています。GFIは、独立性や誠実性を損なう恐れがある場合や、利益相反を引き起こす、またはその疑念を招く恐れがある場合は、寄付を受け入れていません。また、代替タンパク質分野の企業からの寄付は、イベントのスポンサーシップやオープンアクセス型の研究の支援に限定して受け入れていますが、そうした寄付が当助成金の決定に影響を与えることはありません。さらに、GFIの寄付者は、GFIが支援するプロジェクトには一切関与しておらず、最終的な知的財産に対する権利も有しません。こうした寄付者のご支援により、GFIの7つのグローバル組織で中核的なプログラムの実施や運営を行うことができます。

#### 研究助成の競争率は？

支給可能な助成金は、GFIが発表する各RFPによって異なります。これまでは、応募された提案の15%程度までが研究助成プログラムを通じて支援されてきましたが、助成の決定にあたってこの割合が考慮されることはありません。代替タンパク質分野の科学的・技術開発的基盤に大きく貢献すると判断したプロジェクトに対してのみ助成を行っています。

#### 双方の優先研究分野にまたがる研究提案の申請はできますか？

RFPの優先分野のうち複数の分野にまたがる提案書も申請可能ですが、優先分野はそれぞれ焦点が絞られており、1つの分野に対してのみ提案書の提出が許可されています。選択したトピックエリ

アの基準をすべて満たしていることを確認し、ご自身の研究テーマと最も合致する優先分野を選択してください。なお、同じ内容の提案書を複数の分野に提出することはできません。

#### 米国の研究者が優遇されることはありますか？

ありません。GFIはこれまでに、5大陸21カ国において研究を支援しており、今後も世界的に最も優れた研究を支援していくことには変わりはありません。提案書は英語で用意されたもののみ受け付けていることから、一部の研究者にとっては言語の壁が存在することは認識しています。しかし、選考プロセスにおいて、英語を母国語としない方々によって書かれた提案書を不利に扱うことはありません。言語能力よりも研究の質を重視し、質の高い科学研究に資金を提供することを優先しています。

#### 共同出資を伴う研究提案を受け付けていますか？

状況によっては受け付けています。我々はGFI単独の資金提供では十分ではないプロジェクトもあることを認識しており、応募者には、GFIの助成金の機会を活用して追加の研究資金を確保すること（その逆もまた然り）を推奨しています。また、提案書に所属組織や[コラボレーター](#)からの資金的貢献について特記することや、誓約書（Letter of Commitment）を添付し補足することも可能です。ただし、特定のRFPIに明示されていない限り、マッチングファンド（同額拠出）は応募要件ではありません。

## 方針について

#### 人間の健康、動物福祉、環境に影響を及ぼす可能性のある研究に対するGFIの方針は？

GFIは、環境の持続可能性、人間の健康および動物福祉の向上を使命として掲げています。そのため、GFIが支援する研究がこうした分野にいかに関与するかを重視しています。研究者の皆様には、研究のあらゆる側面における環境や人間の健康、動物福祉に関するリスクを誠意を持って特定し、そうしたリスクを軽減するために適切な代替策を講じる努力をすることが求められます。

GFIは、動物に危害を加える恐れや、死に至らせる恐れのある研究活動への資金提供を避けるよう努めていますが、状況によっては、適切な機関の承認がある場合に限り、当該分野における一部の活動（例として、生体または死後の動物からの細胞株の分離など）を許可する場合があります。

人間の健康、動物福祉、または環境に影響を与える可能性のある活動については、応募サイトへアップロードする *Research Design*（研究計画書）と、提案フォーム内の *Environmental & Social Impacts*（環境・社会への影響）のタブの両方に記載する必要があります。当該活動の使用や影響を最小限に抑える方法を記述し、そのような活動やリソースが必要である根拠を明確に提示してください。

### オープンアクセス型の研究のみが助成対象となっている理由は？

GFIの助成プログラムは、助成する研究が公益に資するものであり、GFIの慈善目的に沿って広く一般の人々に役立つことを目的として構成されています。また、GFIの研究プログラムも業界全体に最大限の貢献ができるよう設計されており、研究成果を誰もが利用できるように公開するという取り組みもその一環です。「上げ潮は全ての船を持ち上げる」ということわざの通りです。

### GFIの助成金を受けた研究における知的財産に関する方針は？

GFIは、非課税資格を維持し、公益に貢献するという使命を果たすために、501(c)(3)団体として、IRS(Internal Revenue Service、米国内国歳入庁)が定めた特定の規制およびガイドラインに従う必要があります。規制遵守するために、GFIでは助成先組織の種別に応じて、個別の知的財産(IP)ポリシーを定めています。概要は以下に示す通りです。方針の全文については、[こちらの](#)助成契約書(Grant Agreement)のサンプルをご確認ください。なお、助成契約書は助成金贈呈前に更新される場合があります。

#### 営利目的の受賞者：

- プロジェクト期間中に発見、創作、または開発されたものは、既存の知的財産またはプロジェクトと関係のないものを除き、助成金受領者とGFIが共同で所有する。
- 特許、著作権、および関連するものを含む知的財産の所有権は、GFIと助成金受領者が均等(50:50)に保有する。
- 各当事者は個別に、自己負担により知的財産権の申請、訴訟、および維持を行うことができるが、これは必須ではない。
- 両当事者は、特許、著作権、および関連するものの準備、申請、維持において協力しなければならない。
- 各当事者は、他方当事者に報告や説明をすることなく、知的財産を社内の非商用目的で使用するほか、非商用目的、研究目的、開発目的であれば、第三者に非独占的かつロイヤリティフリーのライセンスを付与することができる。一方で、営利目的のものやロイヤリティを伴うライセンスについては、当事者間での通知と情報共有が必要となる。
- 第三者に付与されるライセンスは、すべて非独占的なものとする。
- いずれかの当事者が知的財産から収益を得た場合、その収益は助成額の3倍を上限として均等に分配される。
- 第三者による知的財産権の侵害があった場合、当事者は互いに通知しなければならない。

#### 非営利目的の受賞者：

- プロジェクト期間中に創出された知的財産は、助成金受領者にのみ帰属する。
- 助成金受領者は、知的財産を要求する者に対し、公正かつ合理的で、非差別的な条件のもとで、使用を許諾するものとする。
- 第三者に対して付与される使用許諾はすべて非独占的でなければならない。

こうした原則は、代替タンパク質分野とグローバル社会に広く貢献するために、誰もが入手・利用できるオープンアクセス型の研究を支援するというGFIの基本理念を推進するものとなっています。

## 提案書の内容について

主要な研究関係者の履歴書やバイオスケッチ(**Biographical Sketch**)はどこに含めるべきですか？  
履歴書やバイオスケッチは提案書に含める必要はありません。研究チームに関する記述は1ページ以内としていますので、アップロードする研究計画書(Research Design)内にコラボレーターを含む研究チームの概要を簡潔に記載してください。研究計画書は最大6ページまでアップロード提出可していますが、1ページ目に主要関係者の資格や経歴、経験を要約して記載してください。

### 参考文献はどのように記載すべきですか？

参考文献は、6ページを上限とする研究計画書(Research Design)内に含めてください。審査員には参考文献を読む義務はありませんので、あらかじめご注意ください。ただし、審査員が提案された研究を十分に検証できない、または適切な文脈で理解できない場合、提案の信頼性や説得力が損なわれる可能性があります。

## 予算について

### 直接経費と間接経費の定義は？

直接経費とは、特定の研究プロジェクトにのみ関連する費用を指します。プロジェクトに関与する人員の人件費、提案された研究に必要な備品や消耗品の費用、学会にて研究成果を発表する際の旅費、論文提出に必要な出版費用、および提案する研究プロジェクトに明確に紐づくその他の費用がこれにあたります。

間接経費とは、特定の助成金に直接紐づけることはできないものの、プロジェクトには必ず付随してくる費用であり、研究活動を支援するために組織が負担する実費です。具体的には、水道光熱費、管理費、研究室やコンピュータ設備、オフィスや研究室の賃貸料など、共用のサービスにかかる費用などが含まれます。

間接経費は、申請された直接経費の10%以下でなければならず、提案する研究を支援するものでなければなりません。

### 予算にはどの通貨を使用すべきですか？

提案書の予算は米ドル(USD)で作成してください。これは、一貫性を保ち、審査のプロセスを円滑に進めるためです。なお、実際の受賞金額は、受賞時に適用される為替レートに基づいて決定されます。



#### 設備・備品の購入に関して申請できる金額に制限はありますか？

5,000米ドル以上の耐久財を設備・備品とみなし、設備・備品関係の申請額は、予算総額の25%までとしています。提案書の審査の過程において、予算の妥当性や、申請された予算に対する研究の価値が評価の対象となるのでご注意ください。設備・備品費用を予算に計上する際には、その設備・備品がプロジェクトの目的にどのように適合し、プロジェクト全体の成功にどのように貢献するかを、予算の妥当性説明資料(Budget Justification)に明確に記載してください。

#### 設備・備品の製作に関連する費用を予算に含めてもよいですか？

はい。提案する研究に必要な設備・備品が購入できない、あるいは所属組織や第三者によってより効率的または安価に製作できる場合、その製作に要する費用を適切な予算区分に計上することができます。ただし、必要とされる設備・備品の製作費の上限額は、総予算の25%とします。製作するもの、製作者、及び関連経費の詳細を、予算の妥当性説明資料(Budget Justification)に記入してください。また、その設備・備品がプロジェクトの目的にどのように適合し、プロジェクト全体の成功にどのように貢献するかについての説明も含めてください。

#### 設備・備品や施設のレンタル費用を予算に含めてもよいですか？

はい。提案する研究の実施にあたり、通常では利用できない設備・備品や施設のレンタルが必要な場合、その費用は施設・設備備品レンタル費(Facility/Equipment Rental)として計上し、予算の妥当性説明資料(Budget Justification)には、レンタルするスペースや、設備・備品の概要およびレンタル料を記載してください。

※レンタルした施設や設備・備品が多目的で使用される場合(例として、組織の一般的な活動で使用される場合や、複数のプロジェクトで共用される場合など)、その費用は施設・設備備品レンタル費(Facility/Equipment Rental)ではなく、間接経費(Indirect Cost)とみなされます。

#### 設備・備品のメンテナンスにかかる費用を予算に含めてもよいですか？

はい。提案する研究において使用する既存の設備・備品のメンテナンスや修理にかかる費用は予算に含めることができます。外部の事業者がメンテナンスを行う場合はサービス費(Services)として計上し、申請団体がメンテナンスを行う場合はその他の直接経費として計上してください。なお、予算の妥当性説明資料(Budget Justification)には、予定されるメンテナンスの内容と、それを実施する担当者を明記してください。

#### 業務委託契約の費用を予算に含めてもよいですか？

はい。業務委託契約に関連する費用は、サービス費(Services)として計上できます。ただし、主な業務は申請組織によって実施されることが想定されていますので、予算の大部分が外部組織によるサービスに充てられる場合、「研究チーム(Research Team)」または「プロジェクト計画(Project Planning)」の評価基準における採点に影響が出る可能性があります。提案の評価を高めるためには、業務委託をバランスよく利用しつつ、主要な研究活動は申請組織が実施するように計画することをお勧めします。

### 研究のコラボレーターと業務委託契約者の違いは？

業務委託契約(service agreement)とは、サービス提供者が特定のサービスや分析を提供するために契約する取引上の取り決めであり、支払いは、そのサービスに対して合意された料金に基づいて行われます。この契約は、研究に対する知的貢献なしに、プロジェクトにおける特定された個別の業務に必要な専門知識だけを調達するものです(例えば、コンピューティング、データサービス、分析ラボサービス、製造、設備・備品サービス、分光分析など)。

これに対し、資金再配分(Subaward)とは、協力的なパートナーシップに基づき、資金の一部を受け取る団体や個人が独自の専門知識やリソースを提供する契約形態を指します。こうしたパートナーシップは、プロジェクトに統合され、継続的に関与するものであり、プロジェクト全体において重要な役割を果たします。

### 研究のコラボレーターはどのように予算に含めるべきですか？

申請組織内のコラボレーター：

応募者の所属組織内の他のグループによって実施される業務に関連する経費は、適切なカテゴリーに分類し、主予算に含めてください。予算の妥当性説明資料(Budget Justification)には、当該費用の詳細情報を記載し、どの研究グループに関連する費用であるかを明記してください。

外部組織のコラボレーター：

組織ごとに予算を別ページに分けて作成してください。追加されたすべての予算書の合計額を、主予算の予算再配分費(Subaward)として計上してください。予算の妥当性説明資料(Budget Justification)には、当該費用の詳細を記載し、どの研究グループに関連する費用であるかを明記してください。

貢献(無報酬)のコラボレーター：

助成金を要求しない協力関係については、予算に含める必要はありません。提案書類には、金銭的または現物によるリソースの提供内容を明記し、そのコラボレーターの役割を説明する誓約書(Letter of Commitment)を添付してください。

### 研究のコラボレーターにはどのようにして助成金が支払われますか？

助成金は、GFIから申請組織に対して交付されます。外部のコラボレーターに対しては、申請組織が資金再配分を通じて資金を分配する責任を負います。

※コラボレーターと締結する契約は全て、GFIの助成契約の条件に準拠し、すべての関連条項や制約(例として、知的財産の所有権／ライセンス、動物実験の禁止、ロビー活動の禁止など)が適用される必要があります。



### 「代替タンパク質分野への新規参入者」と判断される基準は？

GFIが「代替タンパク質分野への新規参入者」とみなすのは、細胞性食品、発酵由来や植物性のタンパク質の開発、またはそれを支えるプロセスの研究・開発に関連する取り組みにおいて、これまでに資金提供（助成金、産業資金、政府資金、または投資によるもの）を受けたことがない個人や団体です。

### 50,000米ドルの追加資金を要求するためのガイドラインは？

前述の定義に基づき代替タンパク質分野への新規参入者とみなされる個人または団体との協力を含む提案の場合、応募者は50,000米ドルを上限として追加の資金を申請することができます。この資金の一部は当該コラボレーターの支援に充てられることが想定されていますが、具体的な配分方法に関する制約はありません。なお、ここで対象となるのは、応募者の所属組織内外を問わず、新規参入者とみなされる個人または団体です。追加資金を申請する提案も、研究の価値と申請予算の妥当性を基準に審査されます（RFP内の「審査プロセスと評価基準（Review process and evaluation criteria）」を参照）。

コラボレーターが応募者と同じ組織に所属する場合は、異なる部門または部署に属し、プロジェクトに独自の専門知識やスキルを提供できる必要があります。コラボレーターが応募者の所属組織に属していない場合は、関連費用の予算を新しいページに詳述し、総額を主予算の予算再配分費（Subaward）として計上してください。いずれの場合も、コラボレーターの詳細やプロジェクトへの貢献内容は、アップロード提出する研究計画書（Research Design）内の研究チームの概要に関する箇所に記載する必要があります。

### 研究成果の出版に関連する費用を予算に含めてもよいですか？

はい。研究成果の出版に関連する費用は、出版費（Publication Cost）として予算に計上できます。予算の妥当性説明資料（Budget Justification）には、予定している出版方法と見込まれる費用の詳細を記載してください。

※研究方法および研究結果は一般公開が必須です。可能な限り、オープンアクセスの査読付きジャーナルでの出版を想定した予算を組んでください。なお、当該費用はプロジェクト終了日までに発生する費用でなければなりません。

### 知的財産管理に関連する費用の予算申請は認められていますか？

はい。研究プロジェクトに関連する知的財産権の準備、提出、管理に関連する費用は、プロジェクト終了日までに発生するものであれば、予算に含めることができます。最も適切な予算費目に計上し、予算の妥当性説明資料（Budget Justification）に具体的な作業内容および費用の詳細を記載してください。なお、プロジェクト終了後に助成金受領者に発生する知的財産管理費用は、GFIの助成対象外となり、受領者自身の責任となります。

## インパクト戦略(Impact Strategy)について

インパクト戦略はどのように書けばよいですか？

提案する研究の影響力を最大化し、有意義な成果を得るための計画を2ページ以内で詳細に記述してください。以下に、インパクト戦略の作成ガイドとして参考項目を紹介します。すべての項目がすべてのプロジェクトに当てはまるわけではないことをご理解の上で活用ください。また、提案計画に関連する費用は、予算内で申請可能です。

### 取り組み課題の具体的な内容

- 研究を通じて解決に取り組む具体的な問題や課題を明確に示す。
- 研究が当該分野における知識の発展にどのように貢献するかを具体的に述べる。
- 研究の革新的な要素について述べ、それがどのように分野全体に好影響をもたらすか、または業界の成長に貢献するか、プロジェクトの変革的な可能性について説明する。

### 研究により影響を受ける集団やステークホルダーとの関与

- 研究の恩恵を受ける個人層またはグループを特定する。
- 特定した個人・グループを、研究の計画や実施、また、研究成果の最大化においてどのように関与させるか、計画を示す。
- 産業界、学術界、一般市民を含む様々なステークホルダーを積極的に関与させる戦略を説明し、その関与がどのように影響力を強化するかを述べる。
- パートナーシップや協力関係がどのように相互利益をもたらすか、また研究の影響力を強める上でどのような役割を果たすかについて詳述する。

### 知識の発展

- 研究が当該領域における知識の発展にどのように貢献するかを詳しく説明する。
- その知識を分野全体のより広範な進歩につなげるために応募者が考える枠組みを示す。

### 経済的・社会的な利益

- 研究成果がどのように具体的な経済的・社会的利益に結びつくのか、概要を説明する。
- 研究成果がもたらすメリットをより広範囲で最大化するための計画を示す。
- 研究成果が持続的な影響をもたらす、長期的に前向きな変化を生み出すための計画を説明する。また、提案プロジェクトの持続可能性や長期的な意義についても明示する。これには、追加資金の調達計画なども含まれる。

### 普及計画

- 研究の成果や導き出される解決策が分野に与える好影響を示し、それを広く普及させるための計画を述べる。
- 従来の手法を超えて、研究成果をより多くの人々に伝えるための独創的なアプローチを紹介する。

## 提案書の提出について

提案書は自分で提出できますか？それとも、所属組織のリサーチ・オフィス(**Sponsored Research Office**)または認定された署名者(**Authorized Signatory**)による提出が必要ですか？

応募資格のある応募者は、ご自身で提案書を提出することが可能です。所属組織のリサーチ・オフィスまたは認定署名者を通じた提出は必須ではありません。ただし、助成対象として選ばれた場合に円滑に助成金の交付が進められるよう、所属組織内の提案書審査手順に従い、必要な承認を得た上で提出することを推奨します。なお、助成金の正式な受領者は応募者の所属組織となり、当該組織が助成契約(Grant Agreement)に署名をする必要があります。

所属や雇用関係のない組織から提案書を提出することはできますか？

できません。助成金はGFIから提案書に記載された組織に交付されるため、研究責任者(Principal Investigator)は、当該組織に雇用されているか、直接所属している必要があります。応募者の所属組織が確実にGFIから助成金を受け取れるように、所属組織内の提案書審査手順に従い、必要な承認を得た上で提出することを推奨します。

提案書が受理されたかどうかを確認する方法はありますか？

提出ポータル([sender@app.goodgrants.com](mailto:sender@app.goodgrants.com))というアドレスより自動返信メールが届きます。メールが届かない場合は、迷惑メールの設定やスパムフォルダをご確認ください。[申請ポータル](#)にログインし、画面上部の「申請」を選択後、「My Proposals」までスクロールして申請状況を確認することもできます。申請状況についてのご質問は、[RFP@gfi.org](mailto:RFP@gfi.org)まで英語にてお問い合わせください。

提出後、審査結果が通知されるまでの期間は？

なるべく迅速かつ効率的に決定するよう努めていますが、厳格な審査プロセスを実施しているため、応募数が多い場合などには審査に予定以上の時間を要することがあります。応募者には、RFP締切日から12週間以内を目安に、助成の可否を通知することを目指しています。

助成対象に選定された場合、プロジェクトはいつ開始すべきですか？

GFIは、2025年9月から11月の間にプロジェクトが開始されることを想定しています。助成金の初回支払いは、助成契約(Grant Agreement)の締結後に行われ、最終となる2回目の支払いは、中間報告書が受理された後に行われます。

## リソースについて

植物性、発酵由来、細胞性食品産業に関する追加の資料はどこで入手できますか？

植物性、発酵由来、細胞性の食品に関するGFIの主要な資料や研究については、[gfi.org/essentials](https://gfi.org/essentials)をご参照ください。また、オンライン・コミュニティやイベントについては、[gfi.org/community](https://gfi.org/community)をご確認ください。

## **GFI 研究助成プログラムへのご関心 ありがとうございます。**

プログラムまたは本RFPに関するご質問は  
[RFP@gfi.org](mailto:RFP@gfi.org)  
までお問い合わせください。（英語のみ）

プログラムについての詳細情報は以下リンクから  
ご確認いただけます。  
[gfi.org/researchgrants](https://gfi.org/researchgrants)

# 免責事項

本資料は、The Good Food Institute, Inc. の許可を得て、一般社団法人The Good Food Institute Japan (GFI Japan)が情報提供のみを目的として作成した[「The Good Food Institute's 2025 Research Grant Program RFP」](#)の翻訳版です。公式な翻訳ではなく、その内容や翻訳上の誤りについて、GFI JapanおよびThe Good Food Instituteは一切の責任を負いません。  
本翻訳と英語原文に相違がある場合は、英語原文が優先されます。

なお、本募集要項及びFAQに記載された「The Good Food Institute」または「GFI」は、サンプル[助成契約書](#)に記載されているThe Good Food Institute, Inc. を指すものであり、GFI Japan（日本法人）を指すものではありません。